

2026 年 10 月 21 日
SAIMEMORY 株式会社
SkyeChip Berhad

SAIMEMORY と SkyeChip、 AI 向け次世代メモリー技術「ZAM」の実用化に向けて協業

SAIMEMORY 株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長 兼 CEO：山口秀哉、以下「SAIMEMORY」）と SkyeChip Berhad（スカイチップ、本社：マレーシア ペナン州、CEO：Dato' Fong Swee Kiang、以下「SkyeChip」）は、SAIMEMORY が推進する高密度・広帯域・低消費電力を特長とする次世代メモリー技術「ZAM（Z-Angle Memory）」に関する設計・エンジニアリング分野で連携することになりましたので、お知らせします。

SAIMEMORY は、大規模な AI（人工知能）モデルの学習や推論処理を必要とするデータセンターなどにおいて、高容量かつ広帯域なデータ処理や処理性能の向上、消費電力の削減を実現する次世代メモリー技術「ZAM」の研究開発に取り組んでいます*。

SkyeChip は、「ZAM」の開発プロジェクトにおいて、同社が持つ半導体設計およびインテグレーションに関する専門性を生かし、設計・エンジニアリング支援ならびにカスタム IP ソリューションの提供を行います。

このたびの取り組みは、SAIMEMORY と SkyeChip の関係構築における重要な一歩となります。両社は、本取り組みを通して連携をさらに深め、将来の ZAM の商用化を見据えた長期的かつ強力なパートナーシップの構築を目指します。

SAIMEMORY 株式会社の代表取締役社長 兼 CEO である山口秀哉は、次のように述べています。

「SkyeChip の高い技術力と豊富な経験は、革新的な次世代メモリー『ZAM』の実現という挑戦において、極めて重要な役割を果たしていただけるものと確信しています。今回の取り組みを通して SkyeChip との信頼関係をさらに深め、ZAM の商用化を共に実現するとともに、次世代メモリーの新たな市場を創出する長期的かつ強固なパートナーシップへと発展させていきたいと考えています」

SkyeChip Berhad の CEO である Dato' Fong Swee Kiang は、次のように述べています。

「現在、AI コンピューティングは“メモリーウォール”（演算性能の向上に対してメモリー性能がボトルネックとなる課題）による性能上の制約に直面しており、SkyeChip のメモリーインターフェース技術は、その壁を突破するための重要な技術です。SAIMEMORY の AI 向け次世代メモリーへの取り組みに参画できることを大変うれしく思います。今回の連携を通じて先端 AI メモリー分野での役割をさらに広げ、SAIMEMORY と共に ZAM の成功と先端メモリーの新たな可能性の実現に取り組んでいきます」

※ 本事業は、NEDO（国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構）の補助事業「ポスト 5G 情報通信システム基盤強化研究開発事業」（JPNP20017）として実施しています。

■SAIMEMORY 株式会社について

SAIMEMORY 株式会社は、東京を拠点に AI 向け次世代メモリー技術の研究開発と実用化を進める企業です。高性能と低消費電力を両立する新たなメモリーアーキテクチャ「Z-Angle Memory（ZAM）」の開発を通じて、AI やハイパフォーマンส์コンピューティング（HPC）分野におけるメモリーの性能・電力消費の課題解決を目指しています。

■SkyeChip Berhad について

SkyeChip Berhad (Bursa Malaysia : SKYECHIP、証券コード : 5357) は、マレーシアを拠点にグローバルに事業を展開する半導体 IP・半導体製品企業です。2020 年に事業を開始し、高性能メモリーインターフェース IP、Network-on-Chip (NoC) IP、D2D (Die-to-Die) インターフェース IP などを提供し、HPC や AI 分野を支えています。また、半導体製品のアーキテクチャ設計・検証から試作、品質認定、量産立ち上げまで幅広く支援しています。これまでに 120 件超の特許発明を創出し、マレーシア、中国、米国で特許出願しています。

- このお知らせに記載されている会社名および製品・サービス名は、各社の登録商標または商標です。